

教師ノート

週課	第三年 第三課 第二週
単元	サムエル記・1
テーマ	召された者の生き方
タイトル	はじめの王サウル
テキスト	第一サムエル8-10章
参照箇所	暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい) エペソ4:1 or 第一サムエル10:9
AG 日曜学校教案参照箇所	
□導入	<p>みんなのよく知っているダビデはイスラエルの王様でした。でも実は2代目の王様です。今日は、イスラエルの初めの王様のお話です。</p>
□ポイント1 人々は王が欲しいと言いました(8章)	<p>先週、少年サムエルが預言者になったお話をしました。その後、サムエルはずっと神さまに仕えました。サムエルは立派な預言者になり、そしてもう歳をとりました。そこで、2人の息子たちに、さばきつかさの仕事を引き継ぎました。しかし、息子たちは神さまに従わない者でした。ウラでお金をもらい、不正な裁判をしていたのです。そこで、人々はサムエルの所にやって来て言いました「あなたはもうお年を召されましたが、息子さんたちは、あなたのように神さまに従って正しく国を治めてくれる方ではありません。どうか今、他の国がしているように、王様を立ててください」。人々は、王様さえいれば国をきちんと治めて、平安な世の中にしてくれると考えたのです。</p> <p>サムエルは、人々の願いが気に入りませんでした。なぜでしょうか？みなさん、イスラエルを治める王さまはだれだと思いますか？そうです、それは神さまです。目には見えなくても、神さまこそが王さまとして、ずっとイスラエルを守り・祝福してくださるのです。そんな最高に幸せなことを、イスラエルの民が喜ばず、他のふつうの国と同じように王様を求めるなんて、それは神さまを信頼していないことになります。サムエルも神さまも大変がっかりしたでしょう。サムエルは、神さまにお祈りをしました。</p> <p>すると、神さまはなんと、「彼らの願うとおりにしなさい」と答えられました。サムエルは、それを人々に伝え、警告しました。「あなたがたは王を立てたいと言っていますが、王を選べば苦しみを負担させられることが分かっているのですか。王を立てるということは、あなたがたの息子を戦争に行かせられたり、娘を召使いにされたり、財産や農作物を税金として取り上げられたりするということですよ。王はあなたがたを奴隷のようにする権利さえ持つのですよ。そうなってから後悔しても、神さまはあなたたちを助けて下さいませんよ。それでも王が欲しいというのですか？」人々はそこまで警告されても、「どうしても王様が欲しい」と言い張りました。神さまからの忠告を聞かず、自分たちの考えが正しいと思い込んでいたのです。神さまは、「彼らの言うことを聞き、彼らにひとりの王を立てよ」と言われました。</p>
☞	さばきつかさ・・・裁判をする人。正しい人を弁護し、悪人に罰を与える。
☞	なぜ、神は民の言うとおりに王を立てさせたのか？ 民が神の恵みを忘れ、主を退けて王を望んだのは大きな罪。しかし、神は強制的に人間を支配する方ではない。放蕩息子のように、私たちがわがままを言ったとき、その思うままにさせてくださる。ただし、神に従わなかった結果は、私たち自身が受けなければならない。同時に、サウルを選び、ダビデが起こされ、キリストを遣わしてくださるという、すべてのことが、神の愛のご計画の内であった。

□ポイント2 神さまはサウルを王に選びました(9章)

9章から、サウルという人が登場します。サウルは「美しい若い男で、イスラエル人の中で彼より美しい者はいなかった。彼は民のだれよりも、肩から上だけ高かった」とあります。ある日、サウルのお父さんの大切なロバがいなくなりました。そこでサウルはロバを捜しに出かけました。しかし、何日もかけて、いくつもの山や町を捜し回りましたが、見つかりませんでした。

そこで、「神の人」つまり預言者サムエルに力を借りることにしました。昔イスラエルでは、困ったとき、預言者に相談する方法があったのです。

一方、サウルがサムエルの所に来る前の日のことです。じつは、神さまは、先にサムエルに語られていました。「明日の今ごろ、私はひとりの人をあなたのところに遣わす。あなたは彼に油をそそいで、わたしの民イスラエルの王様にしなさい。」神さまは、サウルを王にするために、ロバの事件をとおして、彼をサムエルのところに導いたのです。17節から22節を読んでください。サウルは「私はイスラエルの中で最も小さいベニヤミン部族で、王様にふさわしい身分も力もない」と思っていたのです。サウルはびっくりして、何が起きているのか理解できないまま、サムエルと食事をしました。

☞ロバ探しのエピソード等の説明は簡略にして、「神さまがサウルを選んだ」ということが要点として伝わるようにしましょう。

□ポイント3 サウルはイスラエルの王になりました(10章)

次の朝サムエルは、神さまのいうとおりに、油のつぼを取ってサウルの頭に注ぎました。サムエルはサウルに言いました。「主が、愛するイスラエルの民の王として、あなたに油をそそがれました。帰り道で、主の霊があなたの上に激しく下ると、あなたは新しい人に変えられます。」サムエルが言ったしるしは本当に起こり、神さまがサウルの心を新しく変えてくださいました。そしてサウルは預言をするようになりました。前からサウルを知っていた人たちは、新しく変わったサウルを見て、非常に驚きました。

サムエルは、改めてみんなの前で、正式にサウルを王として選びました。公平に、クジで選びましたが、やはりサウルに当たりました。その時、サウルは荷物の影に隠れていました。彼が出てきたとき、非常に立派な青年だったので、人々は「王様、バンザイ！」と言って、大喜びしました。こうしてサウルが、イスラエルの初めの王になりました。

☞油をそそぐ・・・ここでは、神さまに選ばれ、神さまに仕える奉仕をする人だということを表す儀式です。

□結論 神さまは、サウルをイスラエルの初めの王にしました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

神さまに特別に選ばれたみなさんは、どう生きるべきでしょうか？

サウルは背は高かったですが、あとは普通の若者でした。いえ、それどころか「最も小さな身分で、王様にふさわしい力はない」と思っていました。しかしサウルは、神さまに召され、心を変えて新しくされ、王になりました。イエスさまに救われたみなさんも同じです。普通の小学生ですが、神さまに特別に導かれ、新しくされたのです！ そのように神さまの働きに召されたみなさんは、どのように生きるべきでしょうか？ 神さまはどのような歩みを喜ばれるでしょうか？ それは、イエスさまに心の王さまになっていただくことではないでしょうか。イスラエルの民は、神さまに従うより、王を求めました。サウルはこの後、神さまのことばに従わず、自分勝手に高慢になっていきました。それで王の座から退けられてしまいます。みなさんは、心と生活の中心に神さまを王として迎え、従っていきましょう。

1) 神さまの愛によって救われたことを忘れないようにしましょう。神さまが愛と力で助けてくださらなければ、召された働きはできません。ふさわしくない罪人を救ってくださった神様の愛にいつも感謝の心を忘れないようにしましょう。自分の力ではなく、神様が選んでくださったことに感謝しましょう。

2) いつも心の王さまであるイエスさまのみことばに従いましょう。サムエルはどうして良いか分からないとき、すぐに神さまに祈りました(8:6、21)。自分勝手にではなく、神さまの言葉に従いましょう。

3) 教会でリーダーになったり、学校でクラス委員やクラブの部長に選ばれたりするかもしれません。神さまがあなたを選んだと信じて、喜んで責任を果たしましょう。祈りながらチャレンジすれば、神さまが、あなたに足りない愛や知恵を与えてくれます。